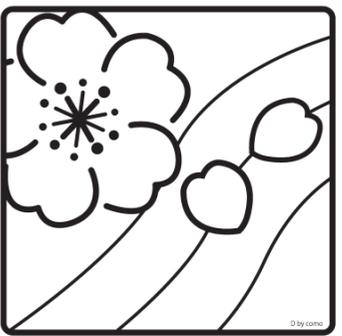


ロスプリベントへの道4 協働防犯(25)

監督やセキュリティ担当者向け応援歌 夫婦桜く運監督室長事件簿くその三



「中学校の技術の時間に使ったタイプですね」「定番です。それが使いやすいですよ。自分分は休日ウッドデッキを作ったりしているから知っているのですが、両刃ノコギリの刃先にはある検刃がとも役に立ちます。木屑を検刃でかきだしながらノコギリを引くと線通りに切ることができます」



「でも、わたしは君くらの頃感じた会社や上司に感じた矛盾や不条理を忘れてはいない。も

「でも、わたしは君くらの頃感じた会社や上司に感じた矛盾や不条理を忘れてはいない。も

「でも、わたしは君くらの頃感じた会社や上司に感じた矛盾や不条理を忘れてはいない。も

「でも、わたしは君くらの頃感じた会社や上司に感じた矛盾や不条理を忘れてはいない。も

「でも、わたしは君くらの頃感じた会社や上司に感じた矛盾や不条理を忘れてはいない。も

「でも、わたしは君くらの頃感じた会社や上司に感じた矛盾や不条理を忘れてはいない。も

「でも、わたしは君くらの頃感じた会社や上司に感じた矛盾や不条理を忘れてはいない。も

第三章

カウンターを切断するのは閉店後の二十時からと決まった。

契約社員に加々美は寒さのため体調を崩しかけていたで先に帰した。

六十歳を越えている加々美は、昨日からの暖房の無いプレハプでの作業がたたったのだろう。少し悪寒がすると言い出した。加々美が帰るときに、津はねきらいの言葉をかけた。

「寒い中、長いことありがどうぞございました」

発見出来ず仕舞いで、すいません。過去の経験からして、こんなときは平然としているヤツが怪しいのですが、この店はみんな平然としているので勤が鈍ってしまいました。なにか変なのですか、その理由がなんだかわからない」

「そうつぶやいて加々美は帰っていった。

その頃、監査室の竹島は近くのホームセンターに近づくのこぎりを購入するために、早番勤務を終えた社員候補の斉藤が買物に付き合ってくれていた。

竹島はワンタッチ式という一五〇〇円のノコギリを手に取り

「これにしますか、ノコギリ部分も柄に収納できるし」

「斉藤は、首を横に振りながら

「そのタイプは枝を切り落とすやつです。刃が片方しかないでしょう。細かいつるを切るとき大変なんです。同じ金額でしたらこれがいいですよ」

「確かに割が合わないです。どう計算したって

「でも、わたしは君くらの頃感じた会社や上司に感じた矛盾や不条理を忘れてはいない。も



このこぎりで (生成 AI が作成したイメージ)

原因となった隙間をテープでふさいだ。

「帰りは、榎戸が全真を駅まで送るという。運達はその厚意に甘えた。この店は駐車場が狭いので車通勤が禁止であったが、今日は榎戸が他店からの商品移動のために自家用車で出勤していた。先に榎戸が運転席に乗り込んだ。

「汚くてすみません。最近、掃除していません。なので、どうぞ気にせず乗ってください」

次に榎戸は降り込んだ。足元にコーヒータンが落ちていた。榎戸は気にせず降り込んだ。座席には新品の小ふりセーターが置いてあった。

榎戸はそのセーターの値札を確認し横に置き、目を閉じた。

「これは一年前に紛失したお金じゃないですか」

「そうか…」

これではぬか喜びではないか。これが今回の不足金ではないということに、当然未解決ということになる。榎戸はカウンターの空洞の中を何度も探したが、もう、なにも出

「お札を切ったらすみませぬ」と言ったが、榎戸も津田も笑えなかった。榎戸は切ったらしいお札を床に置いた。

「お札を切ったらしいませぬ」と言ったが、榎戸も津田も笑えなかった。榎戸は切ったらしいお札を床に置いた。

https://www.jeas.gr.jp/pdf/20260508.pdf